

新入生合宿研修を終えて

う蝕学分野 助教 山中 裕 介

平成27年4月11日（土）、12日（日）の2日間、新潟市西区赤塚のメイワサンピア新潟にて、新潟大学歯学部新入生合宿研修が開催されました。この研修は、歯学科および口腔生命福祉学科の新入生および3年次編入生を対象として行われるものです。今回は、歯学科44名（3年次編入生5名を含む）、口腔生命福祉学科24名（3年次編入生4名を含む）、学生アシスタント6名、教員24名、そして事務職員3名の総勢101名での2日間にわたる研修となりました。これから6年間もしくは4年間共に過ごすクラスメートや教員との交流を図り、さらにはグループ討議、様々な講習会や講演会を通じて、歯学部生としてのあり方、歯学に対する修学心を高める事を目的としております。私も、自分が入学した2002年度以来の参加であり、自分の時はどうだったかな～、と昔を思い出しつつ、参加を楽しみにしておりました。

初日は、歯学部集合組と新大西門集合組に分かれ、それぞれのバスに揺られてメイワサンピアに到着しました。私は一足先に、会場で他の先生方と一緒に待っていました。全員が到着して早々、山村教授のかけ声のもと、玄関で集合写真撮影。ほぼみんな笑顔で写っているので、最初からリラックスできていたのかな？と言ったところですよ（写真1）。



(写真1)

2階の会場に移動してからは開会式が行われ、前田健康学部長、高木律男副病院長の挨拶に始まり、参加スタッフの自己紹介の後、歯学科および口腔生命福祉学科のカリキュラム、健康管理に関する事など、充実した学生生活を過ごす上で重要と思われる事柄について各担当教官から説明がありました。その後、PROGテストが行われました。厳しい大学入試試験を終えて数ヶ月…テストです。と言っても、学力を診査するものではありません。PROGテストは、専攻・専門に関わらず、一社会人として求められる汎用的な能力・態度・志向を評価するためものです。“今の自分”を見つめる機会になったでしょうか（写真2）。

休憩を挟み、8～9名の8班に分かれて、ニックネームを記したネームプレート作りと自己紹介の後、2年生の学生アシスタントの登場です。1年前はこの新入生合宿研修にいた彼らが、頼もしく堂々と自己紹介している姿は、新入生にとって身近な目標となったと思います。その後は、みんなで昼食をとり、全体の雰囲気もより和やかになってきたようでした。

昼食後の自己研鑽セミナーⅠでは、魚島教授司会のもと、「砂漠で遭難したときにどうするか」



(写真2)

と題したコンセンサスゲームが行われました（写真3）。各自が渡されたリストにある12の品物に必要度の順位をつけて、それを各班の中で意見をまとめていくというものです。みんなそれぞれの意見をぶつけあいながら、仲良くまとめていきました。続いて行われた自己研鑽セミナーⅡでは、藤井教授から「面接試験を再考しよう！」と題して、面接試験の質問内容についての問題点と受験生の視点から見た適切な質問内容を検討しました（写真4）。各班の中で、印象に残った面接官の質問を列挙し、K-J法（挙げられた項目全てを同列に列挙、分類し、図解等にまとめる方法）を用いて、質問のグループ分けをしました。その後、まとめたグループプロダクトをみんなの前でプレゼン。緊張してうまく話せないかなと思いきや、意外と慣れた感じが出ていたのには驚きました。

初日の行事は終わり、夕食です。会場前で、2年生の学生アシスタントが準備した席のクジを引いて、1日過ごしたグループとは異なったメンバーとの会話の機会がもたれました。同時に、2～6年生による部活動紹介が行われ、1年生はひ

とつひとつ熱心に聞いていました。各部とも、一緒に活動してくれる部員を求め、熱烈な勧誘合戦が繰り広げられました（写真5）。私としては、先輩達と、いずれは後輩達との交流の持てる部活動には、是非参加してもらって、充実した学生生活を送ってもらいたいと思います。夕食後は、教職員との懇談の場が設けられ、準備しておいたお菓子やジュース等を飲みながら、夜遅くまでにぎやかに会話を楽しんでいました。

2日目は、朝食後に学生アシスタントによるガイダンスとクラス幹事の選出、教員によるガイダンスでダブルホーム（第一ホームは、専門の「学部・学科」。また、第二ホームは、本学の教員が地域と連携して取り組んでいるプロジェクト。）、学生支援、セクハラ相談や健康管理についての説明がありました。

その後、瀬尾教授によるBLS（Basic Life Support）の講習会が行われました。BLSとは、心肺停止状態の人に対して行う救命処置のことです。講習では、専用のマネキンを用いて、気道の確保、人工呼吸や心臓マッサージを行いました。



(写真3)



(写真4)



(写真5)



(写真6)

さらに、AED（自動体外式除細動器）の使用方法についても学びました（写真6）。BLSは、患者さんが容体急変などで心肺停止状態に陥ってしまった時の即時対応として行われています。今後、医療従事者として様々な人と接していきますが、いざという時にBLSの知識があれば、慌てることなく適切な処置を行うことができます。

BSL講習後の閉会式では宮崎副学部長のご挨拶をいただき、2日間の研修が終了となりました。この研修を通じて、学生同士の距離が縮まったように思います。これからの長い学生生活の苦楽をともにする仲間となるので、みんなで切磋琢磨して、6年後あるいは4年後に訪れる大きな目標を乗り越えていってほしいと思います。

